

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・後期・A群
	対象学科・専攻	電気電子工学科
情報処理 (Information Processing)	担当教員	今村 成明 (Imamura, Nariaki)
	教員室	電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9022)
	E-Mail	n_imamu 最後に@kagoshima-ct.ac.jpを付けて下さい。
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 15回	
〔本科目の目標〕 本科目では、様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語、C言語を修得する。文法の理解を目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 2年次前期の情報処理 の続きである。前期におけるprintfおよびscanfなどの入出力関数の基礎知識を十分に理解していることを前提とする。本科目は3年次の「情報処理」、5年次の「情報処理」の基礎となる。		
〔学習上の留意点〕 プログラミングは、どれだけ多くのプログラムを作成したかによって、上達のスピードが変化する。そのため、本科目は例題、演習を主体となる。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 制御構造		
1.1 2つの場合分け	2	if文の書式、if~elseの書式、処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。
1.2 3つ以上の場合分け	2	if~else ifの書式、およびswitch文の書式、処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。
1.3 反復構造	8	while文の書式、処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。 do-while文の書式、処理の流れを理解し、各種プログラムを作ることができる。 for文の書式、処理の流れ、規定回数の繰り返しに用いられるということを理解し、各種プログラムを作ることができる。 インクリメント・デクリメント演算子、代入演算子を理解できる。 break文の意味と動作を理解し、合計計算のプログラムを作ることができる。 2重ループの動作を理解し、各種プログラムを作ることができる。
2. フローチャート	2	端子、入力、出力、条件分岐、ループ端の各記号の意味を理解できる。 フローチャートの描き方を理解し、各種フローチャートを描くことができる。
--- 後期中間試験 ---	2	授業項目1-1.1~2について達成度を確認する。
3. 配列	8	配列が大量のデータを保存するのに用いられること、配列の宣言、配列のサイズについて理解できる。 繰り返しと伴に用いられ、合計計算のプログラムを作ることができる。
4. ユーザー定義関数	6	関数定義、引数、関数値、関数のプロトタイプ宣言の意味を理解し、各種プログラムを作ることができる。 ローカル変数とグローバル変数の意味を理解できる。
--- 後期期末試験 ---		授業項目1-1.1~4について達成度を確認する。
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解出来る。
〔教科書〕「新版 明解C言語 入門編」 柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ		
〔参考書・補助教材〕適宜プリントを配布する		
〔成績評価の基準〕中間試験および期末試験成績 (70%) + レポート成績 (30%) - 授業態度 (最大15%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		